慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

| | |
|---|---|
| Title | 表紙 目次 |
| Sub Title | |
| Author | |
| Publisher | 慶應義塾経済学会 |
| Publication year | 1956 |
| Jtitle | 三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.49, No.9 (1956. 9) |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | |
| Genre | |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19560901--001 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 三田學會雜誌

慶應義塾經濟學會

九月號

論説


勞資關係の歴史的發展と
わが國の勞資關係の特質……藤林敬三（一）
經濟理論の歴史性……富田重夫（二三）
—M・ウェーバーの理念型理論を中心として—
アメリカ勞働組合の理論……川田壽（三五）
—コモンズ理論について—
L・シュタインにおける國家と財政學……大島通義（三八）


資料


資財帳範例雜記……宇尾野久（五〇）
—Brevium Exempla-Miszellen—
書評及び紹介
學界展望
經濟學關係文獻目錄



第四十九卷　第九號


# MITA GAKKAI ZASSHI

(Mita Journal of Economics)


Vol. 49, No. 8　August, 1956


CONTENTS


Page

Analysis of the Effect of Price Adjustment by Foreign Trade Policy ..... *T. Shiraishi* (1)

The "Priority of Heavy Industry" Controversy in Soviet Union ..... *H. Kato* (11)

Historical Analysis of the Industrial Organization ..... *T. Noguchi* (23)

**Reviews and Notes**



Published for
**KEIO-GIJUKU KEIZAI GAKKAI**
(The Keio Economic Society)
Editorial communications to be sent to the Editor, Keio-Gijuku Keizai Gakkai, Keio-Gijuku University, Mita, Minato-ku, Tokyo, Japan.
Price 70 yen

## 書評及び紹介

山岡亮一・木原正雄編『封建社會の基本法則』……平野・寺尾・絢子・誠子（六三）
——ソ同盟歴史學界の論爭と成果——
學界展望
アメリカ經營學最檢討の課題……關口操（六八）

# 勞資關係の歴史的發展とわが國の勞資關係の特質

藤林敬三

## 一

勞資關係が企業毎に多少の相違する樣相を示していること、また勞資關係が國によつて多少ともに違つた特徴を持つていることは、經驗上既に廣く知られているところである。またこのことと共にさらに一般に、勞資關係が歴史的に變化し、發展しつつあるものであることが指摘されて來ている。勞資關係の樣相に多少の相違のあることについては、かくして凡そ次ぎのようにいうことができよう。即ち、ある國においてある時代における勞資關係は、これに先き立つ時代及びこの後の時代の勞資關係とは歴史發展的に確かに違つた特徴を示すものであると同時に、それは同時代的には企業毎に違つてもいる。果してそうだとすれば、勞資關係を特徴付けるのに、われわれは一方では勞資關係の歴史的發展を問題とすると同時に、他方では歴史的には同一發展段階における勞資關係の相違點を明かにしなければならない。そしてこの前者の問題において、勞資關係の歴史的發展が各國において大體ある特定の發展傾向を示すものであるとすると、各國間における勞資關係の相違は歴史的發展の段階的差異を示すか、それともそれは同一發展段階における企業間の差を示すものに過ぎないか、この孰れかであるということになる。例えば、わが國の今日の勞資關係を米英、獨佛、その他の國のそれと比較してみて、この間にやや顯著な相違が認められるとすれば、この相違は歐米諸國に比してわが國の歴史的發展の遲れを示していることになるのか、それとも歴史的には既に同一段階に達していると考えられるから、それはただ企業毎の相違に類するものと考えて然るべきであるのか、これの孰れかであると判斷されなければならない。(註一) 私は本論では聊かこの問題に關連し、特にわが國の勞資關係の特質に觸れると考えられる若干の事態を明かにしてみたいと思う。(註二)

（註一） この點については、かつて森五郎君も次ぎのように述べている。即ち「特定の國における經營勞資關係の類型という問題は、明かにその國における勞資關係の歴史的段階と切り離しては理解できない許りでなく、それを無視して類型を求めようとすれば、